今、団塊世代の先輩から学ぶ

荻島　洋子

静岡

病院で医療事務の仕事をしていた頃、
看護師さんに「手話講座があるから行ってみようよ」と、誘われ何気なく行ったら、馴染んでしまった。
甥っ子が、聴覚に障害があったのも心の底で関係したのかも知れない。
講座で「お仕事は？」の問いに「病院関係」と答えたら、ざわめきが起きたという。
伊豆地域に手話通訳者がいない時代。病院ではろう者との意思疎通が難しいことから「手話で相談ができる人になってくれるかも！」という希望のどよめきであったようだ。

2025年の「サマーフォーラムinきょうと」に向けたレポート検討会は、プレゼンテーション方式で発表している。参加者へレポート内容の説明の仕方、飽きさせないための時間配分など、お互いが的確なアドバイスを出しあい、見ている人が感動できる仕上げへとみんなで練りあげている。

静岡県聴覚障害者協会　小倉健太郎事務局長と

また、2026年の「サマーフォーラムinしずおか」に向けた
準備委員会の会議も行っている。
経験豊富な荻島さんたちの意見はとても貴重である。
周りの人達と一緒に情報を共有する中、「絶対に満足のいく
大会をやり遂げるぞ！」
との思いがひしひしと伝わってくる。
富士山は、その雄大な姿を見せつけているのでなく、
見る側に受け入れる気持ちを湧かせる。
裾野の広がりが優しくむかえてくれるからだろう。
会議の中で、異なる意見が対峙した時、決して上から否定せず、
両者の思いをプラス方向へ向かわせる。
力強く、しっかりとした、愛情深い荻島さんは周りの人から
信頼され、尊敬される、優しいリーダーである。
荻島さんは「自分も多くの人に支えられ、育ててもらった」
という。

是非、2026年の「サマーフォーラムinしずおか」に参加し、
たくさんの人たちが学びあう場になってほしい。
そして、荻島さんに会って「オギシマパワー」をもらってほしい。

静岡県手話通訳問題研究会運営委員メンバーと荻島会長

手話通訳者養成講座

伊豆ろうあ協会　中川みゆき会長（左）

荻島さんの手話の原点「かえで友の会」のメンバーたち
わたしがオギシマに手話を教えたという方がいてくれる。

50代の頃、医者もあきらめかけた難病になった時、入院先の個室へ、ろう者も見舞いに来てくれた。ノックの音に「どうぞ」と返しても入ってこないのがろう者。
ベットから降りてドアを開けにその時は裸足で行ったら、入って来たろう者が荻島さんを見て靴を脱いだ。
相手への気づかいをする人たちと感じた。残りの命を手話に捧げる決意をした瞬間だった。

写真／文　松本　博